

アスパラガス簡易雨よけ栽培における殺菌剤防除回数削減

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

露地栽培アスパラガスで問題となるアスパラガス茎枯病対策として、本県では簡易雨よけ栽培が普及導入されている。他県では本栽培方法を導入した場合に、殺菌剤の防除回数が削減できたという事例がある。

そこで、簡易雨よけ栽培による本病発病抑制効果及び殺菌剤防除回数削減の可能性について確認した。

(2) 情報・成果の要約

アスパラガス簡易雨よけ栽培は、アスパラガス茎枯病に対する発病抑制効果が高く、本栽培方法により殺菌剤防除回数が3～4回削減可能であり、本殺菌剤削減体系（表1）の薬剤コストは50%程度削減が可能である。

2 試験成果の概要

(1) 簡易雨よけ栽培による本病発生軽減効果の確認（2000年）

露地アスパラガスの殺菌剤無散布及び慣行体系において、雨よけの有無で本病発生を比較したところ、いずれの条件においても簡易雨よけ栽培では本病の初発生が遅く、発病抑制効果が高かった（発病茎率約84%低減）（図1）。

(2) 簡易雨よけ栽培による殺菌剤防除回数削減（2000年）

同圃場の簡易雨よけで慣行体系（殺菌剤防除回数17回）と殺菌剤削減体系（殺菌剤防除回数12回）を比較したところ、殺菌剤削減体系は慣行体系と同等の防除効果であった（データ略）。

(3) 簡易雨よけ栽培による殺菌剤防除回数削減（2022年）

同圃場の前作本病少発生及び多発生の簡易雨よけで慣行体系と殺菌剤削減体系を比較したところ、殺菌剤削減体系は慣行体系と同等の防除効果であった（図2、表1）。

(4) アスパラガス茎枯病以外の病害に対する防除効果

褐斑病及び斑点病に対して殺菌剤削減体系は慣行体系と同等の防除効果であった（データ略）。

3 利用上の留意点

(1) 5月中旬の立茎開始からの試験結果である。

(2) 前作の本病発生状況が本作の本病発生に大きく影響するため、前作で発生が多い場合は慣行体系での防除が望ましい。

(3) 殺菌剤削減体系の最終防除は10月中旬であり、その後発病が増加して次作の本病発病に影響する可能性があるため、栽培終了（地上部片付け）が11月以降になる場合は、慣行体系と同様に11月上旬防除が必要である。

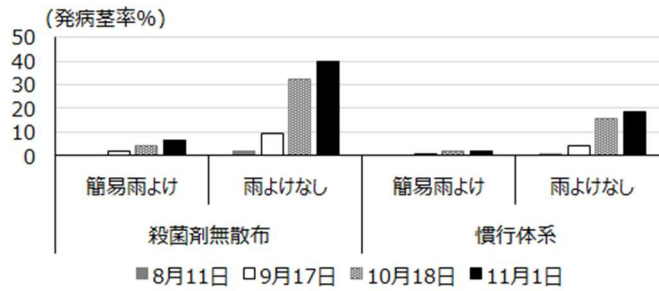


図1 簡易雨よけ栽培の有無によるアスパラガス茎枯病発病の推移(2020)

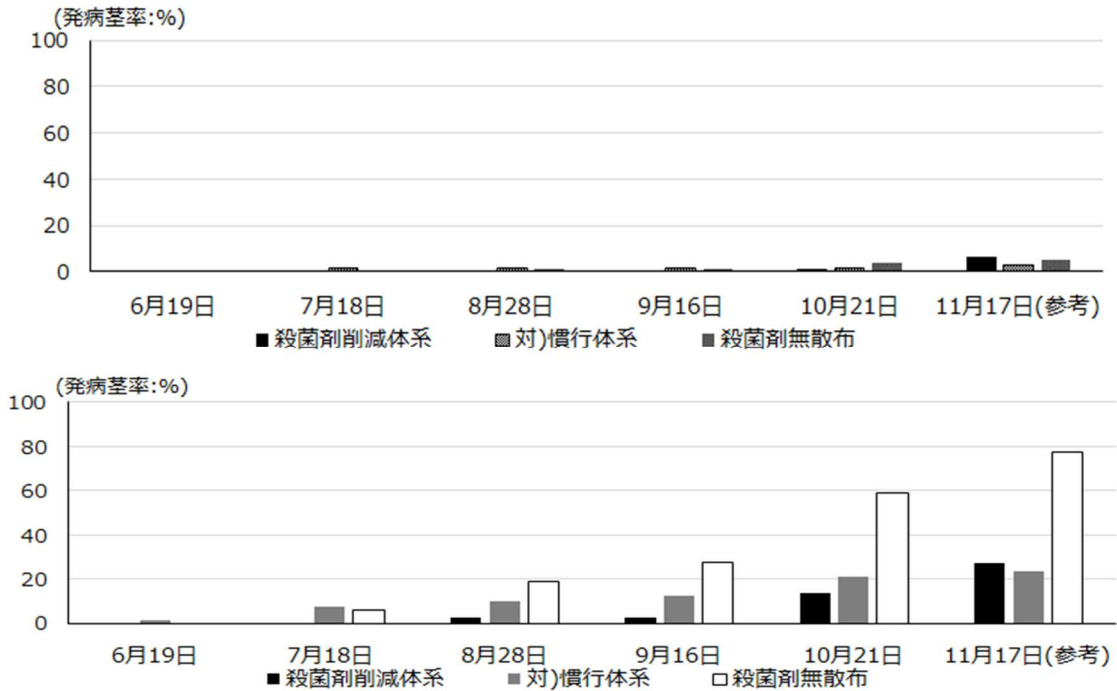


図2 簡易雨よけ栽培における各体系のアスパラガス茎枯病発病の推移(2022)
(上図:前年本病少発生 of 簡易雨よけ 下図:前年本病多発生 of 簡易雨よけ)

表1 各種防除体系

処理区	散布時期 (散布量/10a)															総防除回数	薬剤数	10aあたり コスト*** (円)	
	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	7月上旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	9月下旬	10月中旬				11月上旬
殺菌剤削減体系*	ベンレ	ゴサ	ダ	-	ゴサ	ダ	-	ゴサ	ダ	-	ゴサ	-	アミ	ゴサ	-	11	5	10,402	
対)慣行体系**	ベンレ	ゴサ	ベンレ	アフェ	ベンレ	ストロ	ゴサ	ダ	-	アフェ	ストロ	シリ	ゴサ	アミ	ゴサ	ペル	15	8	20,908

注)薬剤名(希釈倍数)は、ベンレ:ベンレート水和剤(2000倍)、ゴサ:ゴサ付[®]3000(2000倍)、ダ:ダ[®]1000(1000倍)、アフェ:アフェット70[®]W(2000倍)、シリ:シリ水和剤(4000倍)、ストロ:ストロ[®]70[®]W(2000倍)、ゴサ:ゴサ付[®]水和剤(2000倍)、アミ:アミスター2070[®]W(2000倍)、ペル:ペル[®]水和剤(1000倍)

*他県の雨よけ防除体系をもとに防除回数を削減したもの

**令和2年度の現地防除体系

***各農薬のネット販売価格をもとに算出

4 試験担当者

環境研究室 主任研究員 田中陽子
室長 中田 健^{*}
室長 米村善栄

^{*}現 農業振興監経営支援課 農業普及推進室専技主幹